

## 肝機能の数値が高いと考えられる意外な病気！？

★毎年受ける健康診断には様々な検査項目があります。

その中には肝臓の機能を調べる検査もありますが、実は肝機能検査の数値が高いと肝臓の異常以外にも他の病気が隠れている可能性があるため注意が必要です。



### ◆肝機能の検査項目



一般的な健康診断で肝機能の状態を調べるには血液検査を行います。

主な肝機能の検査項目にはAST(GOT)、ALT(GPT)、 $\gamma$ -GTP( $\gamma$ -GT)があります。

これらは肝臓の細胞に存在したり、肝臓内の胆管で作られたりする酵素ですが、ASTについては骨格筋や心臓の筋肉にも多く含まれています。

ALTや $\gamma$ -GTPは肝細胞の破壊により高くなることが多いですが、ASTは心筋梗塞や筋肉の炎症によっても高くなるので、それぞれの数値の差を比べながら病気が隠れていないか調べます。

### ◆検査項目の基準値



それぞれの検査項目の基準値は以下の通りです。これらの基準値を超えると何らかの病気が疑われます。

・AST(GOT):30U/l以下

・ALT(GPT):30U/l以下

・ $\gamma$ -GTP( $\gamma$ -GT):50U/l以下

### ◆ASTやALTが高い場合

ASTとALTが両方とも高い場合、まず肝臓の病気が疑われます。

特にALTが高い場合は、肝炎や脂肪肝などの病気の可能性があります。

反対にASTの方が高い場合は、多量飲酒が原因によるアルコール性肝障害などの可能性があります。そして、ALTは基準値以下でASTだけが低い場合は、心筋梗塞や筋肉の炎症などの病気が疑われます。



### ◆ $\gamma$ -GTPが高い場合



$\gamma$ -GTPはアルコールや薬剤などを無害化する働きがあります。

お酒を飲み過ぎる人は数値が高くなるため、 $\gamma$ -GTPだけが低い場合はアルコールが原因のアルコール性肝障害の可能性が高くなります。

しかし、お酒をほとんど飲まないのに数値が高くなる場合もあります。この場合、非アルコール性脂肪肝の疑いがあり、脂肪分の多い食事やジュース類をよく飲むことなどが要因となり引き起こされる可能性があります。

★このように、肝機能の数値は肝臓の異常以外でも高くなるため、重篤な病気を予防するために重要な検査です。肝臓は「沈黙の臓器」と言われ、障害があっても自覚症状がないまま進行していきます。

肝機能の数値が高くなる原因には、今回ご紹介したもの以外にウイルス性のものなどもありますので、数値の上昇が見られたら、早めの受診と併せて生活習慣の見直しに取り組みましょう！

